

ここで暫時休憩いたします。
再開を35分といたします。

〈午後1時30分 休憩〉

〈午後1時35分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田原洋子議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。〔7番 田原洋子君登壇〕

○7番（田原洋子君）

こんにちは。田原洋子です。

通告書に基づき、1回目の質問をします。

1、糸魚川駅の利便性向上について。

糸魚川駅アルプス口と日本海口にあるヒスイ王国館の駐車場は、北陸新幹線、大糸線、えちごトキめき鉄道の利用者が多く利用しています。中でも、北陸新幹線を利用する場合は、アルプス口にある駐車場、ヒスイ王国館の駐車場の駐車券を改札内にある認証機に通すことで、4日間（96時間）無料になります。

この駐車場の空き情報はネットで確認できるようになり、満車時に駅の反対側の駐車場へ行くために駅を迂回する不便さが解消されつつあります。

しかし、4日間無料のため、見込める利用料金の収入が減少し、駐車場維持管理の費用に影響を及ぼしているのではないのでしょうか。

さらに、ヒスイ王国館の駐車場サービス券は、アルプス口の駐車場で使えないため、ヒスイ王国館で一度に多くの方が集まる催事や会合があった場合、主催者が駐車券を事前に買い上げ来場者に配付しても、アルプス口に駐車した方は利用できず不公平感があります。

さらに、ヒスイ王国館1階にある観光物産センターで3,000円以上の買物をすると30分無料券をもらえますが、アルプス口の駐車場に車を止めた場合には無料券を使うことができません。

また、糸魚川駅周辺の飲食店は、13時半頃をラストオーダーとしている店舗が多く、特に定休日の多い日曜日、火曜日は昼食を取る場所に困る観光客が多く見られます。

ヒスイ王国館の1階にある飲食店は、新型コロナウイルス感染症の影響などで、現在営業しているのは夕方からオープンする1店舗のみとなっています。

このため、1時間程度の中途半端な乗換え時間を過ごすために、糸魚川駅に隣接しているヒスイ王国館に喫茶店や軽食を求める声があります。

また、糸魚川駅にあるコインロッカーの位置が新幹線改札口の隣、ヒスイ王国館の1階、観光物産センターのレジ近くにある階段脇と分かりにくい場所にあります。

さらに、折り畳んだ自転車、登山の大きなリュック、大型スーツケースが入るサイズが不足しています。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) アルプス口、ヒスイ王国館、それぞれの駐車場で、新幹線利用者はどのくらいいますか。
- (2) 新幹線利用者は実際に何時間止めるか、調査はしていますか。
- (3) 受益者負担の原則から、新幹線利用者の駐車料金を無料から、ある程度有料にする考えはありませんか。
- (4) アルプス口の近くにあるJRの宿舎跡地は、コロナ禍前はアルプス口の駐車場が満車になるため繁忙期に開放されていましたが、第3の駐車場として活用する考えはありませんか。
- (5) ヒスイ王国館の駐車券をアルプス口で使えるようにする考えはありませんか。
- (6) 大糸線、えちごトキめき鉄道利用者に対して、駐車場を48時間まで無料にする社会実験を過去に行っていましたが、その結果はどうだったのですか。
- (7) ヒスイ王国館1階の空きスペースに、飲食店の入居者を確保する働きかけは行っていますか。
- (8) コインロッカーの大型化もしくは荷物預かりを、積極的に行う考えはありますか。

2、糸魚川駅北に計画中的の子育て支援施設について。

糸魚川駅北に整備が検討されている子育て支援施設は、現在更地になっている旧井上商会跡地と、隣接している旧東北電力ビルを解体して施設機能の拡充を図るとしています。

この施設は、糸魚川駅北大火後のにぎわい創出をどうするか、から始まっています。

そこに、国道148号近くの上刈にある、やまのい保育園内にある「発達支援センターめだか園」の利用者が増えて、手狭になっていることから、同じ敷地内にある「糸魚川子育て支援センター」を移転し、移転後のスペースを「発達支援センターめだか園」で活用すること、また、平成29年に子ども・子育て支援事業計画の見直しのために、小学生以下の子供がいる全世帯に対するアンケートでは、回答した約1,890人の中で、施設整備に関する自由記述欄に「屋内遊戯施設が欲しい」が約100件あり、一番多かったこと、平成30年に行った、にぎわい創出アンケートでは公立保育園、私立幼稚園の保護者と、子育て支援センターの利用者、小学校2校の保護者約200人がアンケートに回答し、約55%が「雨の日でも遊べる場所が欲しい」と考えていたことから、子育て支援施設の検討が進められているものです。

現在、子育て世代、自治会、経済団体、まちづくり団体などと3巡目の懇談会を開き、意見を聴いているところですが、意見交換の団体に入っていない市民からは「商店街の一角に子育て支援センターが移転するようだ」と、何となくでしか情報が伝わっておらず、実際に子育てをしている世代や、お子さんを預かる機会の多い世代の方からは「自分たちの意見や考えを伝える方法がない」という声をお聞きします。

さらに、子育てに対する価値観や経験、子育て支援施設に対する期待値や興味の度合い、近くの子供を預けられる人がいるかないか、糸魚川市内の子育て支援センターや上越市のオーレンプラザをはじめとした、市外の施設を利用したことがあるかどうかで、意見は大きく違っているのではないのでしょうか。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) 糸魚川子育て支援センターの移転先として、駅北を候補地に上げたのはなぜですか。
- (2) 現在の糸魚川子育て支援センターから移転することで追加される機能は何ですか。
- (3) 旧東北電力ビルの解体はいつ行われますか。
- (4) 子育て支援施設の対象年齢は何歳までを想定していますか。
- (5) 一時預かり保育は休日、夜間も利用できますか。
- (6) 一時預かり保育の利用料は検討していますか。
- (7) 糸魚川市内の公・私立保育園・幼稚園の保護者にアンケートを取ることは検討していますか。
- (8) 入園前の乳児がいる保護者、妊婦の意見はどのように取り入れていますか。
- (9) 市民から広く意見を聴くために、糸魚川市公式LINEやネット回答を活用することは検討していますか。
- (10) 運営はどのようにしていきますか。
- (11) 駅北にある糸魚川地区公民館、市営駅北復興住宅の交流スペース、駅北広場キターレ、相馬御風宅、商店街、公園との連携はどのように取っていきますか。
- (12) 子供が伸び伸び遊べる場所として、公民館や体育館、集会場など広いスペースがある場所に開放日を設ける考えはありませんか。

3、買物弱者の対策について。

糸魚川市内では建物の老朽化、後継者不在、採算性が取れないなど、様々な理由で身近な小売店が閉店し、ふだんの買物に困る方が多くいます。

特に免許返納をしたり、車を所有していない高齢者のみの世帯にとっては、買物に出かけたときにまとめ買いをする、欲しいものを別居しているお子さんやお孫さんに電話でお願いしたり、宅配便の要冷蔵を使い、市外から食料品を送ってもらうなど、その人なりの工夫をしています。

また、糸魚川市では移動販売支援事業があり、バス停まで歩くのが大変な世帯の方でも、移動販売車が家の近くまで来てくれるので、とても助かっているという声があります。

その一方で、中には牛乳1本を買うにしても、成分無調整か低脂肪か、飲みきれないから1リットルではなく500ミリリットルにするか、たまにはコーヒー牛乳がいい、と選ぶ楽しさや、ふだん食べているヨーグルトと違うメーカーを選んだら気に入った、といったように決まったもの以外を食べる喜びを求める方もいます。

さらに、スーパーで買物をするということは、店内を歩くだけでも足の運動になり、家の冷蔵庫と野菜は何かあったかを覚えれば記憶力の向上、特売品で献立を考えるのは頭の体操になり、健康増進につながるのではないのでしょうか。

糸魚川市では路線バスの停留所や駅から離れた地域の交通手段として、コミュニティバスと乗り合いタクシーが運行されています。

能生地域は川詰、大洞、高倉の3路線が能生国保診療所、能生駅、能生事務所を經由し、そこから乗り換えることで糸魚川地域と上越方面に行くことができます。

青海地域は玉ノ木、市振・上路の2路線が市振駅、親不知駅を經由し、商業施設が多いほっこり館から糸魚川総合病院行きのバスに乗り換えることができます。

山之坊・木地屋地区は平岩診療所を經由し、平岩駅から糸魚川駅へ、小滝地区は小滝診療所を経

由し、小滝駅で大糸線に接続しています。

下早川地区と上早川地区は、しまだ医院の前で路線バスに乗り換えることとなります。

運行経路上、安全な場所であれば、どこでも乗り降りできる路線や予約が必要ない地区もあり、大変重宝されています。

しかしながら糸魚川駅まで来ても、買物をしたい商業施設に行くためにはさらにバスへの乗換えが必要になり、帰りに再びバスに乗って、電車に乗ると、接続時間がうまくいかないために買物したいものを諦めることがある、とお聞きしたことがあります。

浦本地区にお住まいの方からは、糸魚川駅方向に行っても駅前のスーパーがなくなったから、バスか電車で能生方面に行くことが多くなった。能生に行けばスーパー、ホームセンター、能生事務所、金融機関、商店街が近いので、一度で用事が足りる、と教えていただきました。

浦本地区から能生方面に向かうバスであれば乗換えがなく、用事を済ませたついでにラーメンでも食べていこう、とたまには外食もできていい、と話されていました。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) コミュニティバスの利用状況はどうか。
- (2) スーパーマーケット、ドラッグストア、衣料品店が集まっているエリアに直通のコミュニティバスもしくは乗り合いタクシーを運行する考えはありませんか。
- (3) 移動販売車の空白地帯はありませんか。
- (4) 移動販売車が来てほしい地域や、寄ってほしい場合は、どこに相談すればいいですか。
- (5) ネットスーパー、宅配の使い方を学ぶ機会を設ける考えはありませんか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田原洋子議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、3年度はアルプス口で9,098台、ヒスイ王国館で4,988台の利用がいただいております。

2点目につきましては、昨年度導入したシステムを活用し、利用状況の把握を行っております。

3点目と5点目につきましては、利用状況等を考慮しながら検討してまいります。

4点目につきましては、繁忙期やイベント開催時等における臨時駐車場として利用いたしております。

6点目につきましては、平成28年度から30年度に社会実験として実施いたしましたが、利用者数はほとんど増加しなかった状況であります。

7点目につきましては、市として働きかけは行っておりませんが、施設所有者へ現状を確認してまいります。

8点目につきましては、利用者のコインロッカーに対するニーズを把握する中で施設所有者と検討してまいります。

2番目の1点目につきましては、東野議員のご質問にもお答えいたしましたが、子育て支援に関

する以前からの課題と、復興まちづくりの推進や中心市街地におけるにぎわいづくりを併せて検討を進めてきたところであります。

2点目につきましては、基本計画案では、屋内遊戯施設と一時預かりの機能の追加を検討しております。

3点目につきましては、現段階では未定であります。

4点目につきましては、懇談会での意見を踏まえ、現時点ではゼロ歳から小学生までとしております。

5点目につきましては、休日は想定しておりますが、夜間については予定しておりません。

6点目につきましては、現在、保育園と実施している一時預かりの料金を参考として検討してまいります。

7点目につきましては、子育て支援施設に特化したアンケートを実施する予定はございません。

8点目につきましては、子育て世代を対象とした懇談会の参加や子育て支援センターの利用者に意見をお聴きいたしております。

9点目につきましては、懇談会で意見をお聴きしていることから、現時点では考えておりません。

10点目につきましては、まず、民間事業者による運営を探ってまいります。

11点目につきましては、駅北にある様々な施設の連携が促進されるよう努めてまいります。

12点目につきましては、既に糸魚川地区公民館などで空き室を親子や児童に開放する取組を行っております。

3番目の1点目につきましては、3年度は13路線で運行し、延べ2,440人の方からご利用いただきました。

2点目につきましては、鉄道や路線バスとの重複などの課題があり、早期の実施は困難ではありますが、今後、検討が必要な課題と捉えております。

3点目につきましては、能生地域の一部が対象となっております。

4点目と5点目につきましては、地区からの相談に応じて企画定住課で対応してまいります。

また、市の出前講座でのメニューに設けるなどの対応を検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

2回目の質問をいたします。

まず、糸魚川駅についてです。駐車場の新幹線利用者は、アルプス口9,098台、ヒスイ王国館4,988台ということですが、もしこの96時間まで全く無料というのを、例えば96時間ま

で上限1,000円と単純に計算したら、アルプス口で909万8,000円、ヒスイ王国館で498万8,000円の収入が見込めるのではないのでしょうか。

この駐車場料金の収入、合わせたら約1,400万、これはばかにできない数字だと思うんですが、このままでよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

駐車場を管理している糸魚川タウンセンター株式会社から、今協議を受けて、協議をしているところでございます。市の考えといたしましては、新幹線駅の活用、それから停車本数の確保という観点から、この無償化を継続したいという考えでありますけれども、その一方で、駐車場の維持管理料金が収支の赤字の要因になっているということもございますので、引き続き、協議を進めてまいります。現時点では無償化を継続したい。そのためには、市としては相応というか見合った負担をしなければならないといった状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

今ほど確かに収入があれば、ヒスイ王国館に対しても、例えば糸魚川駅直営のアルプス口に対しても白線を引き直したりとか、維持管理をするときに使える収入が、お金が増えるということですね。例えばゼロか1,000円かとかではなくて、48時間までは無料なんだけど96時間までが1,000円だとか、JRの社宅跡地は、ちょっと歩くんだけど無料、近くに止めたい方は有料ですというような柔軟な考え方が必要となりますが、それを踏まえて検討していただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

利用実態の調査もお聞きしておりまして、48時間程度が多いというふうに聞いています。これを96時間を48時間無償化したところで、大きな変動はないというような状況でございます。ただ、このまま先ほど申し上げましたとおり、現状のまま続けていいのか、あるいは受益者負担を求めていくのか、改めて今検討中でございますので、また詳細については、今後詰めさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

先ほど従来線の社会実験、駐車場を無料にしてもあまり利用者が増えなかったという答弁を頂きましたが、今大糸線に乗るためにかなり利用されたいという方が増えてるのではないかと思います。えちごトキめき鉄道も含め、大糸線を含め、利用者を増やしたい今だからこそ、駐車場を無料ありますよというふうに打ち出してみてもいいかでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

過去に3回ほど実験を行いました。それも3回とも市民の方の生活利用とか、その辺りに資するのではないかとということで鉄道利用にするのではないかとということで実験をいたしましたが、結果につきましては、市長答弁のとおりでございました。今ほど議員ご指摘のような大糸線がこういう状況で、糸魚川市民の方が大糸線に乗ってどこかへ1泊とか日帰りとかの旅行に行っていたきたい。そういう計画も私どもも持っておりますので、今後、大糸線の活性化という観点で、その辺取り組む余地があるかどうかというのは、ぜひ検討させていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

大糸線が、いい意味でというよりもちょっとネガティブな感じで話題になり、姉妹都市の塩尻から、わざわざ大糸線で来ましたという方に私もお会いしました。そういう意味でも、今注目されてるときだからこそ、大糸線に乗ってみようと思ってる糸魚川市民のために使いやすくなればいいかと思います。

それで、今、駐車場が無料にしてるのは、乗る方を増やすためなんですけど、そもそも新幹線に乗って出かける用事がなければ、新幹線利用は増えないと思うんですよ。「ブラタモリ」で5人しか降りなかったというのを2回も言われた糸魚川市にとって、逆にこれを逆手に取り、6人目来てくださいという、逆に降りてくださいキャンペーンは、やらなくていいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

観光面で、鉄道のほうを使っていたきたいというのは、従前から考えておるところですが、「ブラタモリ」でタモリさんに二度も5人しか降りなかったという逆手に取るというアイデアは、大変面白いものだと思っております。今後、新幹線だけではなくて、在来線等も一緒にどのようなPR方法があるのか、改めて考えさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

では、駐車場の話から観光客の利便性向上の話に移りたいと思います。

商工観光課が行っている創業塾、商工観光課ではないですかね。創業塾では、飲食店の開業を目指す方が多いとお聞きしています。例えば創業したい方に、チャレンジとしてヒスイ王国館の飲食店だったスペースを少し安く貸し出して、逆にゴールデンウィーク、お盆、年末年始は営業すること、お昼休憩なしで営業することなどを条件にして、チャレンジさせてみるという考えはありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

ご存じのようにヒスイ王国館は、糸魚川タウンセンター株式会社が運営しております。テナントにつきましても管理のほうはタウンセンターのほうで行われておりまして、そのような誘致につきましては、そちらのタウンセンターのほうが基本的にやっております。今ほどの創業塾で、新たにお店を出したいという方をたくさんおられるというふうに認識しております。

また、タウンセンターのほうも、ご存じのように下のほうの階の飲食店につきまして、今2店舗ほど空いておりますので、そういったものをお互いのメリットになるように話のほうを続けていけるようにしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

タウンセンターが営業してるので、そこは糸魚川市と話し合って、糸魚川駅がこれでいいのかという全体的な考えになると思います。決まらないのであれば、ただ、飲食店がないのね、空き店舗なのね、にぎわってないのねで印象を残すのではなくて、それこそテーブルと椅子で高校生、電車時間まで勉強してよというふうなスペースだったりすれば、観光客の方もここで買って来たお弁当食べよっかなと思えると思うんですよ。やっぱりただがらんどくにしろのと、やっぱり違うと思うので、その辺は話し合っただければと思います。

では次に、せっかく糸魚川に来たんだから、おいしいお魚が食べたい、カニが食べたい、ここにしかないものが食べたいと楽しみにして糸魚川に来ていただいた観光客の方に、全国どこでも食べられるものしか味わってもらえないまま帰らせてはいけないと思います。

例えば繁忙期に、昼食を取ろうと思っても、飲食店が混んでる。定休日に入れられないという方のために、繁忙期だけでも、例えばお弁当を販売するなり、そういうテイクアウトという仕組みで何か支援はできないか、お考えはありませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

今ほどのご提言は、タウンセンター内の空き部屋に周辺の飲食店からのデリバリーというふうなお話だというふう感じております。おっしゃるように、せっかくの店舗につきましては、そのまま空けておくのはもったいないというふうに私も思っております。タウンセンターの役員の方たちと一緒に、また改めてそのような空き店舗につきましては、どのような活用方法があるのか。どのようにまた新たに店舗が入っていただけるのかというのは、検討していきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

検討する上で、例えばお弁当販売だと保健所の許可など、いろいろな申請だとか、例えば販売員をどうするのか、その人件費どうするのか、例えばみんなで出し合えば何とかなるのかとか、できれば前向きな検討をお願いしたいと思います。

さらに鉄道ファンの中では、駅弁のかけ紙を集めているファンの方がいます。糸魚川駅には、以前に釜めしや笹ずしといったような駅弁があったんですが、それを覚えていらっしゃる方は、それが食べたかったというご意見があります。ぜひ、もしテイクアウトメニューを考えるようであれば、かけ紙を集めたい鉄道ファンのためにも、そのようなことを検討してください。

では次に、コインロッカー、荷物預かりについてお聞きします。

残念なことにコインロッカーの場所が分かりにくく、ヒスイ王国館の平面図とか案内図を見ても、どこにもコインロッカーという表示がありません。糸魚川駅自由通路のエレベーターの中にもコインロッカーの文字がありません。旅行者の方というのは、今何でもスマホで検索します。糸魚川駅コインロッカー、糸魚川駅荷物預かり所を検索しても、糸魚川観光協会のホームページを見ても、全く情報が出てきません。糸魚川に初めて来る方に必要な情報は何かを考え、ホームページの更新に取り組んでいただけないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

田原議員ご指摘のとおり、コインロッカーの案内というのは大変不十分なものと考えております。また、ホームページ等、ヒスイ王国館のホームページ、またJRのおでかけネット、そういったホームページを確認しても、どこにもコインロッカーという言葉は出てきておりません。

また、当市のホームページにもコインロッカーの文字もありませんので、ご提言ありましたように、ホームページ等で分かりやすく表示のほうをしていきたいのと、やはり現場で案内板というのはどうしても必要だと思っております。現場を確認させていただくと、コインロッカーという文字

が見えたのが、3か所ぐらいしかなかったと思います。やはり総合案内板みたいなところに記載のほうも必要だと考えておりますので、JR、また、えちごトキめき鉄道等とお話しさせていただいて、新たな案内方法を考えさせていただきます。

○議長（松尾徹郎君）

タウンセンター内の関係の質問については、商工観光課のほうでも答えられない部分が出てくるかと思っておりますので、その辺。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

梅海新道を縦走された、登山をされていた男性2人組が、糸魚川駅近くの食堂に入って、そして頼んでもないのに大盛り御飯が出てきたというんですよ。多分それは、その方だけじゃなくて、糸魚川ってすごくサービス精神がよくて、盛りがいいというか、小鉢をつけてくれたりとかするんだと思います。その2人は、糸魚川ってさすがですね、お米がすごくおいしかったって、喜んで帰られました。やっぱりそのように、せっかく糸魚川に来たんだから、またリピーターになっていただこう、そのためには、やはり新幹線口、糸魚川駅というのは、とても重要だと思います。また、これからもぜひ力を入れてください。

では次に、2の子育て支援施設について伺います。

3巡目の懇談会が終わったと言いますが、そもそも糸魚川市民の中には、この子育て支援施設について情報が全く入っていない方が多いような気がします。そもそも糸魚川駅北大火前からの中心市街地活性化、駅北大火後の復興、さらに駅前にあったスーパーの撤退で買物が不便になったことが加わり、そこににぎわい創出というキーワードが絡んで、ちょっとごちゃごちゃしてるような印象が残っています。

そもそも子育て支援施設を検討するに当たり、糸魚川市は子供が少ないのだから必要ないという意見もあります。子育てに力を入れるのは、今いる子供たちだけのためなのか。少子化で人口減少が止まらない糸魚川市に子供を増やしたいと未来の話をするのか、糸魚川市のビジョンがはっきりしていません。

そこで、米田市長にお聞きします。

まず、米田市長は、ひとみかがやく日本一の子どもをスローガンにし、一貫教育に取り組んでいます。米田市長は、子育て支援についてどのような方針で、どのような考えをお持ちなのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

基本的に糸魚川の子供たちにとりまして、糸魚川市は、やはりここで生まれて、ここで育ってよかったと将来言っていただけのような教育をしていきたい。そして、なるべくお子さんたちは、早

く目標を見つけ、夢を見つけ、それに向かって教育の中で、さらに夢に近づくように進んでいただきたいというのが基本で、糸魚川の子供たちに対してしっかり見ていこう。また、教育の中で行政として連携させていただきたいという気持ちで取り組んでおりまして、ゼロ歳から18歳までを基本として日本一の子育てをしようという考え方で取り組んでおるわけでありまして。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

次に、井川副市長にお聞きします。

井川副市長は、糸魚川市に子供を増やしたいのですか。子育て世代の将来は、どのように描いてほしいとお考えになっていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

私も福祉の担当が長くて、これまでどちらかというと高齢者中心の施策が多かった。その分については充実してきていると思っています。それはやはり対象の方が多いということもあって、声もやっぱり多く頂くということです。

そういった中で、子育ての皆さんが、今少ないからといってそういった声をまるきり聞かない。そういった形では市として明るい未来を築けないというふうに考えています。少数意見であるからといって、そこを見逃すのではなくて、しっかり子育ての皆さん、子育て中の皆さんの意見を聴いて、未来の糸魚川、もうちょっと詳しく言えば人口が増えるような施策の一助として、子育て環境の充実に取り組んでいきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

次に、靄本教育長にお伺いします。

入園前の乳児がいるご家庭にとって、家族以外に子育てを手伝っていただける人や場所があるということは、教育上どのような意味合いがありますか。また、子供にとって家族以外に触れ合うことは、成長にどのような影響を及ぼすとお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

子供が生まれて、まず集団づくりの一番根本は家庭、親子、おじいちゃん、おばあちゃん、兄弟

だというふうに思います。その辺の関わりの中で、人としての在り方、そして、人と人との触れ合い方の基本をしっかりと学ぶんだというふうに思います。成長段階に応じて子供たちというのは、いろんな発達段階がありますけれども、特に乳幼児については、やはり集団でいろんな友達、いろんな関わり合いの中で、自分とは違う子供がいるんだとか、あの子はこんなふうなよさを持つてるなどかというふうな認め合い、支え合い、そして助け合いみたいなものが、家族以外の集団との触れ合いの中で基本的な人と人との関わりを学ぶ大変大事な機関だというふうに思っています。その辺の関わり方が豊かであればあるほど、多様性を認め合うとか、そして、いろんな方々との出会いを楽しみにするとかというふうな広がりが生まれてきます。その辺の部分の人と人が、1人の人間として成長していく上で、最も基本的な部分が、やっぱり私は家庭、そして乳幼児、そして園・保育園で学ぶその集団だろうというふうに私は捉えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

市長、副市長、教育長の考えは、これからの糸魚川を担っていく子供や子育て世代を大切にしなければいけないと同じ方向を向いています。

しかし、これが市民に向けてしっかり発信されていないので、子育て支援施設についてよく分からないということになっているのではないのでしょうか。

糸魚川の、そもそも子供の数が減っているのに、まず、発達支援センターめだか園の利用者が増えているのはどうしてか。手狭になっているとはどういうことか、そこすら分からない方もいらっしゃると思います。まず、そこからご説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

発達支援センターめだか園の利用者が増えているという部分でございますが、こちらにつきましては、様々な相談経路が増えていく中で、小さな相談であっても受け付けるような体制が整っていることから、件数等も増えているということで捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

つまり子育ての支援とか相談業務を手厚くしてるので、めだか園が手狭になっているわけですね。この説明がしっかりまた伝わってないので、子供が数が少ないのに、めだか園を広くする必要があるのかという議論が沸き上がってきてるんです。

今度、めだか園が、じゃあ広げます、そのために支援センターを移転しますと理由が分かったと

ところで、次に市民から湧いてくる疑問が、なぜ駅北なのかと。車で行きやすい中央大通り線や美山公園、最近整備が進んでるので、そこでは駄目なのかという疑問の声が上がってきます。駅北に造ることで、国や県からの補助が受けられるなど、にぎわい創出という目的以外に何か利点はあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、直近というか近く考え方とすれば、今の駅北のための復興のにぎわい、それと行政的な課題の部分だと思います。前段の東野議員のご指摘も頂きましたように、糸魚川市の都市運営というところに関しても、そこは20年、30年というかなり長いスパンなのですが、そういう方向性にも合っていて、要は、これからは少し密度の高いコンパクトな都市運営というところを目指す。そういうところに資する機能であるということも、併せ持って市民のほうにはお伝えしていかなければならないと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

すみません、国や県からの助成金とかは、対象になるエリアなんでしょうか。何か計画の一部なのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

国の補助金に関しましては、まず都市機能誘導区域という、立地適正化計画で都市機能を集める区域というのが定められています。その中で、私どもが掲げる都市機能誘導施設、こういう施設が、機能があることで利便性を高める施設というところで、その中に子育て支援という部分がうたわれておりまして、そういう部分がうたわれていることで、まず基本的な復興のまちづくりのような補助金に立地適正化計画との整合があることで10%のかさ上げがあって、50%という、最近では比較的有利な補助制度が受けられるというものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

この50%という国からの助成、これがないので10億円だとかいう大きな数字だけが独り歩きして、こんなに大きな金額を糸魚川市が払えるのかとか、こんなにかけるのかという議論も出てく

るのだと思います。駅北に造る理由、支援センターを移転しなければいけない理由、そのことを含めて、やはり市長の子育てを力入れるんだという気持ちを合わせて、やはり一度市民に示していただければと思います。

では、逆に駅北ではなく、別の場所に施設を建てた場合、もしくは、そもそもこの計画が白紙になった場合、旧井上商会跡地と旧東北電力ビルは、どうなるのでしょうか。今現在、解体の計画はまだ未定とおっしゃってましたが、そもそもこの計画がない場合はどうなるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

2つとも市所有でございますので、その生かし方をまた検討しなくてはいけないと思います。旧東北電力には、ビルが建っておるわけでございますので、撤去するかしないかも含めて、検討しなくてはならない状況になろうかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

この駅北に建てない場合、旧東北電力ビルが、そのまま活用を考えますと言われたまま、またずっと何年もたっているのか心配されてる住民もいらっしゃいます。やはりこの駅北に、もし建てない場合はどうなるのか、それによって意見が変わってくる方もいらっしゃると思います。そろそろ方向性をはっきりする時期ではないでしょうか。

糸魚川の子育てについて、糸魚川の未来を考えるには、今がいい機会です。シンプルにまず糸魚川の子育て支援をどうするかをしっかりと考え、その施設の利用が増えれば、町の人の流れが増える、採算が取れると判断されれば、コンビニやカフェ、商業施設が増えるという考え方もあるのではないのでしょうか。

また、糸魚川駅にテレワークで来た方が、子供を連れてきても糸魚川駅前に子育て支援室があれば、子供を預けてテレワークをするだろう。様々な働き方改革が行われるかと思えます。子育て支援センターの建物内にコンビニを入れようとか、全部入れようとするからちょっと無理があるのではないかと思います。これは駅北全体の計画です。そのようなまず方向を示していただくことはできないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当に今、田原洋子議員のご指摘、非常に分かりやすくご質問いただきました。我々は、そのように皆さんに市民周知をしておるわけでありますが、なかなか行政というのは全部言わにゃいかん

なということで、何か違ったところに力が入ったり、ちょっと言わなかったところがあったりして、いろいろ履き違えたり、また聞き違えたり、いろいろされとる状況もあるのかもしれませんが。その辺をやはり分かりやすくどのように進めていくか、説明するかというのをしっかりともう一度考えながら、市民に周知を図っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

先ほどLINEなどを使ったアンケートなどは考えていないということでしたが、確かに意見とかを聞けば聞くほど100人いたら100通りがあるのでまとまらないということもあります。でも逆に、今あるLINEとか、例えばQRコードでアンケート様式がもうスマートフォンで答えられるのであれば、その中に面白いアイデアとか、お金を使わないでも楽しめるアイデアとか出てくるのではないかと思います。ぜひそういったような柔軟な考え方を検討してください。

それで、駅北全体に考えれば、糸魚川地区公民館では、パパ、ママのヨガ教室や、おしゃべり広場を開催しています。この利用状況や効果はどうでしたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

市内の3か所では、遊び場を利用するという事業を今年度から始めております。7月の上旬に糸魚川地区公民館におきまして、「もっと！アソビバ！」という形で事業を行っております。こちらにつきましては、約30組、100人の方からご出席いただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

そうですね。何も支援センターだけではなくて、駅北には新しくなった地区公民館やいろんな施設がございます。この中で、例えば親子で食育というのであれば、調理室がある地区公民館を利用するとかといったような総合的な子育てエリアに手厚いエリアというような考え方ができると思います。

そこで、旧能生町では、寺子屋と銘打って、夏休みや冬休みに公民館で児童の学習や体験活動を行っています。上南地区公民館では、長期休暇に限らず、子ども楽習教室として、放課後学習活動をしています。市振地区公民館では、夏休みこども教室として、宿題を地域の人たちが見守ってくれています。このような取組を様々な地区で取り組んでいったら、糸魚川駅に全部来なくても、身近な公民館で子育てができるのではないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

おっしゃるように各地区公民館では、それぞれ親子対象ですとか子供を対象にした体験活動、それから学習活動というのを実施しております。特に能生地域では、おっしゃったように寺子屋というような形で夏休み、冬休み期間で学習の支援ですとか体験活動ですとかというのを特に熱心にやられてるという状況がございます。

この活動につきましては、ほかの公民館でも広げてまいりたいということで、他の地区の公民館でも、それを参考にしながら新たな事業展開を行っているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

この子育て支援について、今、入園前のお子さんを持つての方、今本当に手厚い支援が欲しいと言ってる方が、計画が先延ばしになったりとかしてることで、もう保育園や幼稚園に入る年になる頃に建物が建つんなら、もうどうしてもいいみたいな言い方されたら困るんですよ。なので米田市長、子育て支援センター移転するとしたら、まずどのぐらいがめどと考えているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

一番スタートが、先ほど田原議員言われためだか園です。めだか園については、狭い状況がずっと続いていますので、そこをまず早急に解消したいというふうに思っています。となると、施設を建設するまでに子育て支援センターが移設するというのが難しい状況であると、それも困りますので、まず、めだか園を拡張するために、例えば一時的でもいいから子育て支援センターをどっか仮移設をして、早急な施設整備につなげていきたい。こんな考えで進めたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

子供というのは、糸魚川の将来を担っていく大切な人たちです。やはり子育て支援センター、機能がどうの内容がどうの、まず言う前にも、やはり糸魚川市として、この子育てを大事にするということを前面に出していただければと思います。

次に、3の買物弱者について、移りたいと思います。

コミュニティバスの利用はとて多いようですが、逆に利用してない方の理由とか、利用者が少ない路線の理由は把握しているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

コミュニティバス、乗り合いタクシー、ご利用状況が本当に極端に分かれております。小滝地域、小滝地区の皆様は、地区の活動とコミュニティバスの運行曜日を合わせてご利用いただくということで年間4桁のご利用、能生の方たちは、非常に大事に使っていただいて、それでも数百人単位で使っていただいております。

一方、早川のほうに関しましては、以前からなかなかご利用というのがない状況で、早川は、鉄道駅にも結ばれない。あとスーパーが少なくなってしまうと、本当にお医者さん、医院に行くだけのところというのもございますし、ただスーパーがあったときからご利用状況が少ない。その要因の中には、一部予約制を取り入れてることが、自分のために来てもらうのが悪いという、そういう配慮もいろいろあります。こればかりは、使う、使わないというよりは、本当に地域性とかその辺によるところが多くて、なかなかその理由というのを特定するのが難しいというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

早川の乗り合いタクシーとかは、そのバスの乗り合い時間まで、うちの待合所を使ってくださいとか、分かりやすい、このパンフレットを利用してるんですが、まず、多分使えない方は、普通の路線バスや電車も含めて乗り方が分からなかったり、接続するバスや電車の時間がちょっと表を見ただけでは簡単に理解できないという方が多いのかもしれないかもしれません。一度利用すれば、自分で運転するより楽だと理解していただけると思います。利用したいけど利用できない方、先ほど公民館単位で、私、要請しましたが、そこで体験するとかというのは考えていただけると助かると思います。

先ほど小滝地区の方は、行事に合わせてかなりご利用されるということなんですが、私、糸魚川総合病院近くのスーパーでお会いした小滝の年配の女性は、病院に来たついでに買物に来ると。背中にリュック背負って、片方に薬2週間分とか持って、持ち切れる量を反対側に持って、小滝駅から歩くというんですよ。おまんがいだねってびっくりすると、今日、晴れとるそい、思い切って出てきたとおっしゃるんですね。やはりちょっと小滝のコミュニティバスとかを考えると、ちょっと大糸線の利活用という面ではよいのかもしれないんですが、やはり乗換えが多くなったりして不便なのかなと思います。社会実験的でもいいんですが、小滝とか平岩、電車に乗り換えなければいけない方の地域のために直通を考えていただくことはできないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私どもも、小滝、平岩の地区の皆様から、汽車に乗らんにかいかんがんだけん、本当はできればスーパーまで行きたいというようなお話を聞かせていただいています。糸魚川駅周辺にお店がなくなったので、乗り合いタクシー、列車、またバスというのはなかなか2回も乗り換えてというのはいらいというお話も聞いております。当市の場合、コミュニティバスというのが、鉄道とか路線バスの行き届いていない人たちを直近の部分のところまで何とかつなげてあげたいということで、その成り立ち上、その鉄道ですとか路線バスの競合というか重複を避けるような設定が成り立ちとしてありました。

ただ、想定しておったところにスーパーがなくなったり、高齢化が進んで、なかなか駅の階段とかもつらいとか、そういう情勢の変化に対応した在り方、課題というのをもうちょっと見直して、整理していく必要がございます。今、当市の公共交通の基本的な計画でございます地域公共交通網形成計画と、ここも見直し作業の段階に入っております。これは都市政策の公共交通だけの分野で本当にええのかということも糸魚川市としては考えて、公共交通の見直し、次回の見直しの部分には大事なポイントになってくると捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

今ほどやはり駅の階段の乗り降りの大変さを課長も説明していただきましたが、青海駅の目の前に住んでる方は、青海駅、特に北斗町、化学工業にあるほうが、50段以上階段があるので、目の前に駅があっても、便利な青海巡回線のバスに乗れば、乗換えなしで148号線のスーパーとかがあるところまで行けて、とても助かってるといふご意見もあります。ぜひ今困っていらっしゃる小滝地区とか平岩地区の方にも便利な路線を造っていただければと思います。

それで、買物に出かけるだけではなく、移動販売車は、実際どのぐらいの商品を積んでるのか、どんな人が販売員なのかを知りたいというご意見もあります。公民館単位で一度試してみるというのはいできないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

公民館単位でというご質問でしたけれども、移動販売に際して、私ども企画定住課のほうで地域の求めに応じて、ご相談あれば対応させていただいたという事例もございましたので、こちらでお答えさせていただきますが、地区によっては移動販売の業者さんと、そのルートであったり、それから今ほど言っていたような品ぞろえのことであったり、また、移動販売の業者さんのサービスの内容をお聞きしたいといったことについて、業者さんと地区と懇談をしたといったような事例もございます。その際には、私ども企画定住課ちょっと間に入れていただいたといったことがございました。公民館の中でということになりますと、それはまた生涯学習課のほうでできる、できないというところはあるかもしれませんが、地区のほうで、またそういった場所というこ

とであれば、また地区と業者さんとの間に入らせていただくことは可能かなと思ってございます。
以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

この買物弱者対策は、免許返納をしたくてもできないという高齢者の事故防止にもつながる取組です。買物に行く3回に1回のうちでもバスやタクシーが利用できたら、運転しない日が増えて、事故のリスクが減るかと思います。高齢者が健康で、住み慣れた地域で暮らし続ける、そんな糸魚川であってほしいと願います。

以上で、終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原洋子議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩といたします。

再開を45分といたします。

〈午後2時35分 休憩〉

〈午後2時45分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。〔15番 中村 実君登壇〕

○15番（中村 実君）

創生クラブの中村です。

1回目の質問を行います。

1、糸魚川市の自然を活用した交流人口の拡大について伺います。

当市には日本海から北アルプス、そして約50キロメートルにも及ぶ海岸線など多種多様な自然が多くあり、観光においても有効に活用を図っているところではありますが、まだ多くの自然を利用した遊びや学び方があると思います。最近ではコロナ禍において、ソーシャルディスタンスを保つことができる野外でのアクティビティーが見直されており、市内でも多くの長野・松本方面からの車が見られています。また、最近では栃木や群馬・埼玉方面からの車も増えてきていることから、今後も糸魚川市内の自然の中で体験できるレジャーを知っていただき、また来たいとを感じるようなPRを行う必要があると思いますが、以下の点について伺います。

(1) 海の家は海水浴場にはなくてはならない風物詩ではありますが、現在は大和川に1軒と能生